

自分のことは自分で守ろう

「悪い人」と言われて、すぐにイメージされるのはどんな人ですか。人によって違うでしょうが、下のイラストのような人には、あまり良い印象をもたないでしょうね。人は相手の外見によって、印象の八割を決めてしまうと言われます。下のような外見の人は、多くの人の中で「悪い人」と映ってしまうことでしょう。



昨日、三年生を対象に「薬物乱用防止教室」がありました。講師のY氏の紹介だけして、他の会議に出なければならなかった私は、彼の話が聞けませんでした。しかし、終わってから、校長室で彼の話のいろいろ聞いているうちに、私は切なくなってきました。

薬物依存者の支援にも関わっている彼が話してくれたことの中に、その切なさの理由がありました。彼は、薬物という魔の手を差し伸べてくる人間は、外見ではわからないということです。実に普通だと思える人の中に、薬物の危険性が潜んでいるとのこと。友人の中にそういう人物がいて危うく人生を棒に振りそうになった若者を必死に救ったということ、彼は熱く語ってくれました。こういう話を聞くと、人間不信に陥りそうですよね。自分に関わる人間をすべて疑わざるを得なくなりそうな気がします。教師として、「人を信じるな」と生徒たちに教えるのは本意ではありません。しかし、そういう現実もあることは彼らに教えなければなりません。そのジレンマが、私の切なさの原因です。

保護者や教師、そして、地域の人たちに守られて、生徒の皆さんはこれまで成長してきました。義務教育最後の三年間は、社会に飛び出していくために力や知恵を身に付ける時です。社会には、これまで経験したことのない矛盾や苦しみ、危険が君たちを待っていることは事実です。それらを見分け、安全に生活することができる賢さを、ぜひ身に付けて生きてほしいと思います。

昨日の下校時に、「(車は)止まってくれよう」とつぶやいて横断しようとした生徒がいました。車と歩行者の間に十分な距離があつたので、はねられることはないと思いましたが、止まらず、「止まってくれよう」という判断でこれから生きるていくとしたら心配です。これまでは守られて生きてきたから、そういう判断が生まれますが、歩道を歩いていても車から突っ込んでくる時代ですからね。これからは自分で自分を守ることが大切です。

「止まってくれよう」を初めとして「この人は信頼できそうだから」「メールで慰めてくれるから」「私の気もちをわかってくれようから」などと決め込んで生きることに、危険が潜んでいることをしっかり覚えておいてください。

(十二月二日記)

